

令和7年度 高山市立荘川さくら学園 学校経営の重点及び自己評価 校長 都竹克彦

方針と重点	市の基本施策	学校教育目標	目指す学校像	資質・能力を育てたい	基本施策との関係	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価A S D	分析と改善点	
重点方針・未来社会を創造する資質・能力を身に付け、学び続ける子の育成 プレゼン教育・キャリア教育・郷土教育・ICT教育	⑤安全・安心で快適な学校環境の整備 ④学校・地域・関係団体等との協働による郷土教育の推進 ③子ども・自己実現を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進 ①豊かな心・健康な体・確かな学力を育み、生きて働く力を身に付ける教育の推進	自律・協創・共生	①グローバル人材の育成 ②幸せと成長を実感	(3) ① 自ら自分と関わり、他人を思いやり、自己管理や自己調整しながら目標に向けて取り組む力 (2) ① 自分と関わり、他人を思いやり、自己管理や自己調整しながら目標に向けて取り組む力 (2) ③ 郷土教育の推進 (2) ② 適応力の向上 (2) ② 適応力の向上 (2) ① 確かな学力の育成 (2) ③ 郷土教育の推進 (2) ② 適応力の向上 (3) ① 確かな学力の育成 (3) ③ 郷土教育の推進 (3) ② 適応力の向上 教育環境の充実 ④ 働き方改革の推進 ④ 働きやすい環境づくりの推進 ④ 先進的教育の研修機会の充実	①	確かな学力の育成	考えの根拠や判断理由の言語化、表現の機会の充実 (教師による自己評価肯定的回答77.5%)	B	○授業で目指す姿を児童生徒と共有し、一人一人が主体的に学ぶ姿が増えた。 ○振り返りの場面を設定し、課題の達成度とその根拠を振り返り、次時の課題につなげることができた。	
					①	確かな学力の育成	子どもが評価基準を理解して追究したり、振り返ったりする授業の確立 (児童生徒によるアンケート肯定的回答86.4%)	B	○児童生徒一人一人と定期的に学びのサポートとして懇談を行い、自己の課題を明確にし、取り組み方法を一緒に考えて計画することで、主体的に粘り強く学習に取り組む姿が見られるようになった。	
					②	確かな学力の育成	自己の課題を認識し計画的に学習に向かう(学サポ・指導の個別化・学びの個性化)	B	◇根拠を明確に話す力を身につけることや、積極的に対話ができる場面を設定する。 ◇PDCAサイクルを大切にし、児童生徒一人一人が自己調整をしながら学ぶ授業を目指す。	
					(1)	①	確かな学力の育成	外国語活動・英語教育の推進 (教師による自己評価肯定的回答92.5%)	A	○1・2年生のえいごあそび、English Day、英語を使った全校レクなど、学校生活全般で外国語に親しむ活動を取り入れ、児童生徒は楽しみながら生き生きと取り組むことができた。
						③	郷土教育の推進	探究の観点に沿った追究方法の確立 (児童生徒に対するアンケート肯定的回答82%)	B	◇個や学級に合った探究のテーマを設定できるようにしていく。
						②	適応力の向上	なりたい自分と手段を明確するための懇談・価値づけ (教師による自己評価肯定的回答92.5%)	A	○児童生徒と懇談を行い、個に応じた指導を行うと共に認め価値づけを行った。児童生徒一人一人がなりたい自分を意識して生活をする事ができた。
					②	適応力の向上	社会情動的スキルの育成に向けた実践 (教師による自己評価肯定的回答95.0%)	A	○複数の教員によるロールプレイを中心に社会情動的スキルの育成に努めたことで、児童生徒の対人関係スキルが向上した。	
					(2)	①	確かな学力の育成	考えの深まりや、新たな考えに気付くための話し合いや議論の充実 (教師による自己評価肯定的回答77.5%)	B	◇発達段階に応じて、話し合いや議論を充実させ、質の高い対話を通して深い学びへとつなげていけるように取り組んでいく。
						③	郷土教育の推進	ふるさとドリーマーとして地域の方を講師に招聘 総合的な学習での協働的な学び・活動、発信の機会の充実 (教師による自己評価肯定的回答97.5%)	A	○個人や学級で探究活動を行う際に地域の講師を招いたり、地域に出向いたりして活動した。発表会では地域の方々の前でプレゼンや劇などで、工夫して表現することができた。
						②	適応力の向上	英語を話したり、校外、海外と交流したりする機会の設定 (教師による自己評価肯定的回答92.5%)	A	○外国の方へのインタビューや、海外・他校とのオンライン交流などで英語を活用し、コミュニケーション能力が身につくにつがある。
					(3)	①	確かな学力の育成	学習したことを授業以外の場面で、活用 (教師による自己評価肯定的回答72.5%)	B	◇知識を関連付けて考えたり、学んだことを生活に生かしたりすることがまだ十分ではないので、生活や社会と学習をつなげる場面の設定をして生かせるようにしていく。
						③	郷土教育の推進	地域の人と協働・地域へ貢献する活動の位置づけ (教師による自己評価肯定的回答95.0%)	A	○地域主催のふれあい研修大会で、学んだことを発表し、地域の方々とふるさと荘川について一緒に考えた。 ○町内一斉清掃、高齢者施設の訪問、MSJリーダーズの活動、荘川さくら公園の清掃など、地域への貢献活動を意欲的に行うことができた。
						②	適応力の向上	社会情動的スキルを身に付けるための実践、異年齢学習の充実	B	○保育園から9年生までの幅広い異年齢学習での実践を通して、対人関係スキルを身に付けつつある。
					教育環境の充実	④	働き方改革の推進	連携による業務負担解消 日課・行事の見直しによる業務のスリム化 (教師による自己評価肯定的回答82.5%)	B	○教職員同士が互いに声をかけ合い、役割分担をし協力して業務を行うことで、適正な勤務時間で働くことができた。
						④	働きやすい環境づくりの推進	定期的面談や疲労蓄積度調査などの実施 (教師による自己評価肯定的回答97.5%)	A	○毎月メンタルヘルスチェックを行い、心身ともに健康状態であるかを確認すると共に、定期的かつ必要に応じて面談を行い、安心して勤務できるように努めた。
						④	先進的教育の研修機会の充実	大学や専門家による先進的教育の指導・研修の機会の充実 (教師による自己評価肯定的回答95.0%)	A	○教職員は、大学との連携、専門家の授業や研修会を通して、指導方法等を学び指導に役立てた。

学校運営協議会における主な評価内容

- ・外国語活動については、生き生きと活動（インタビューやオンライン交流など）に取り組んでいる。今後も継続して外国語の学習に取り組み、グローバルな人材育成に努めてもらいたい。荘川地区の英語を話せる外国人を活用するとよい。
- ・地域との協働が多く見られることはよいことである。地域とともにある荘川さくら学園として今後も継続して行ってほしい。また、郷土教育の中で、荘川町PRのためにパンフレットの作成を英語で行ったことは素晴らしく、まちづくりの観点からも地域も一緒になって活動に取り組んでももらいたい。
- ・給食選手権での最優秀賞受賞は素晴らしい。これは荘川さくら学園の魅力の1つである。今後も郷土の魅力を見つけアピールできるとよい。
- ・9年生を送る会の様子から、8年生のプレゼンでの発信力身に付いていて素晴らしかった。自分たちで企画・計画し、運営をする主体性が身に付いている。
- ・情報機器の使い方について家庭と連携をして、学校で指導をしたり研修をしたりしていくとよいのではないか。